（十四日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

辰年生の人々の活躍振（三）

大和田豊吉

○其他政治家では、前の外務大臣子爵青木周藏卿、法學博士鳩山和夫氏、大岡育造氏などあり、陸海軍人には陸軍中將高島鞆之助閣下陸軍大將佐久間左馬太閣下同じく陸軍大將黑木爲楨閣下などあり、若し舊き人々を數へ上げれば

人はいざ心も知らず
故郷は花ぞ昔しの
香ににほひける

と百人一首かるた取りで知られた和歌の大家、紀貫之卿、浮世繪の大家として德川時代に有名なりし葛飾北齋氏、同じく繪畫を以て有名なりし、英一蝶氏、又元祿時代に、江戸の歌舞伎役者を代表した初代の市川團十郎氏など、中々名人偉人が多いが悉く擧げ盡くすべくも無いから大概にして略するが、只最後に易學の大家として有名なりし、高島嘉右衛門翁、足尾銅山の持主、チヨン髷の翁として名高かつた古川市兵衛氏、今一人、我が邦に細菌學を開拓した、黴菌の親玉、醫學博士北里柴三郎男爵の傳記を記述するに止め置く

○高島嘉右衛門翁は、舊南部藩士、遠州屋嘉兵衛の子、江戸に生る、父は遠州屋の屋號の下に材木商を營む、翁幼にして、聰明、好んで經書を愛讀し、殊に周易を究む、父に從ひて材木商に從事し、頗る辛苦經營の結果數萬圓の利益を得たり、時の政府、黄金の海外輸出を禁ずるや、翁其禁に觸れて捕はれ、在獄七年、獄中に周易の蘊奥を究む、後獄を出で再び材木商を營み數十萬圓の利益を得、更に明治三年志を決し、資産を抛ちて飛脚船を造り西國の運輸業を創め、次に新橋橫濱間の鐵道開通を首唱してこれが鐵道を完成せしめ、又萬圓を投じて橫濱に洋[illegible]子弟教育して、學校の模範を作り、更に瓦斯燈を始めて橫濱港内に布設して、不夜城の觀を呈したるなど、其効少からざるに依り、銀杯三組を創めて下賜せられたる外、恐れ多くも　明治天皇陛下より、進歩の首唱者なりとの勅語を賜りたるなど、殊に又白發百中の神筮に至つては驚くの外は無い聞く伊藤博文公なども國家的の大事件に遭遇しては必ず先づ高島呑象翁の筮竹に問ふたものだといふ會て聞く支那の格言に、周易を知らざれば、宰相たる能はずと、又論語に五十にして、易を研究すれば、誤りなきに近しと、兎に角神變不可思議の周易を研究して、百發百中と云へる定說を發見せるは尋常一樣の人物ではない

○古河市兵衛氏に至つては、淺野總一郎氏等と同じく腕一本、脛一本より叩き上げた實業家の大家である古河氏は元々京都在なる岡崎村の人、家系に元由緒ある家だと云ふことだが、父の代に至り酒造業に失敗して、遂に豆腐屋となり、古河氏も年十一才の頃、父の家業を手傳へ弟と共に在豆腐箱を擔ぎて、村内は申すに及ばす近村迄も至るまで賣り歩き

豆腐　蒟蒻　油揚

て隨分高く賣り歩いたと云ふ、此人早くも悟る所あり所謂運根鈍の三原則を立身の基礎として、艱難辛苦の結果、遂に銅山王となつたのであると云ふ、運とは、あの人は運が善いなどゝ云ふ運にて、運と果報は寢て待てと申すが、運は果して寢て居て來るものか、古河氏に言はすれば運は決して寢て居てくるものではない必ずや働く者の上に降り來るものであると云ふのだ、さらば働くにはどうするかい加減に働くのか、否々さうでない、根氣好く働くのであると申すのだ、然ゝ鈍を以て占め括りをするので鈍は愚を意味するのではない、鈍重と申して、一生懸命、一業に身を委ねてどつしりと落ち付いて、底力强く働くの意を意味するのであると云ふ、要するに此全力を注ぐ所所謂精力集中の致す所、功茲に成るゝと古河氏は實に此運根鈍の賜物である、氏の一身には模範とすべき點中々に大い

明日の吉凶

舊暦十二月廿三日
新暦一月十五日

▲一白　身飾りを質素にして分限を守れば大吉なり▲二黑　十分と思ひし事にも行惱みを生ず失物注意▲三碧　苦しみ多くとも後日の爲と思ひて辛棒すべし▲四綠　自分で思はざりし事に不圖手出し苦しむ日▲五黄　氣を締め油斷なくはげむときは大望も成るべし▲六白　進路をまげず既定の方向に歩むが安全の日▲七赤　永久に亘る事を始むるには尤もよき日なり▲八白　金錢出づるとも苦にするなかれ後日大に入る種▲九紫　目上に逆らはぬ樣にすべし外に在りて失物注意

講談

血で血を洗ふ

（231）

高橋掬太郎創作
布施平八郎揮毫

忍び寄る者

同じ天狗の假面を冠つてゐても、それは第一の怪人であるか第二の怪人であるか判らない、しかし大五郎は夫れを考へる猶豫がなかつた

近づく怪人の前へ、彼はパッと飛び出した

「いや、暫く待たれよ」

と、大五郎が聲をかけると怪人はギヨッとしたらしく振り向いた

「何ん……？」

假面の底から刄物のやうに鋭い眼が光つた。早くも油斷なく右手は刀の柄に掛つてゐた。

「いや、驚きあるな、拙者は横山大五郎でござる」

と大五郎は名乘つた

「ナニ、横山大五郎とな……

怪人は考へるやうに大五郎を睨んだ。

「されば。先頭の夜の曲者御身に諫められた横山大造の一子大五郎昌友でござる

大五郎は重ねて云つた

「たゝ、あの大五郎殿か！

怪人は漸くうなづいた

「お判りでござるか」

「如何も相判り申した。して、何か御用でござるか」

怪人は問ふた

「一大事でござる」

「ねッ！——」

「それをた報せしやうと存じて、これで三晩の間此の處で御身をお待ち申した。何しろ今宵限りで明日に迫る大事なのでひどく心配を致し申した」

大五郎はほつと安心したやうに云つた

「左樣でござつたか、で、その一大事と申すは一體如何なることでござるか？」

怪人も不安らしく急ぎ込んで問ふた

「この一大事と申すは……

と、大五郎は怪人を木陰に誘つて

「明日早朝より此の裏山の一帶を三日間に亘つて狩するといふのでござる」

「えッ——」怪人も驚いた

「卷狩といふのはつまり御身等を討つためでござる」

「成程——」

と、怪人は重々しく考へ込んでゐたが氣がついたやうに

「で、明日の巻狩に昌康公も出馬するのでござるか」

と問ふた

「勿論、昌康公は總指揮を致すのでござる」

「うむ」

と怪人は又もや深く腕を組んで考へ込んだ

「それで、如何に貴殿に鬼神の勇があらうとも、衆寡敵せずとやら殊に銃砲組が備へてあるので危險と存じお知らせ申しに參つたのでござるが、近頃はお姿が見ねぬといふのですいぶん心配致し申した」

「左樣でござるか、御心配辱ふござつた」

怪人は心から禮を述べた

「殊に姬君も御同居の由、萬一の事かあつては取り返しがつき申さぬ、早くお逃げがねがひたうござる」

大五郎は重ねて注意をした

「承知仕つた。處で實を申上げると拙者は御身を諫めた怪人ではない」

と怪人が云つた

「えッ、ではちがふのでござるか、道理で聲が少しちがふやうに思はれ申した

と、大五郎も始めて氣がついた

「しかし、御心配あるな御身を諫めた怪人も拙者も同じ目的に向つて働いてゐるもの故、御身の御親切は拙者にとつても此の上なく有難いのでござる」

と怪人は重ねて厚く禮を述べた

「たゞ殘念なことにはもう一人の怪人が何人であるかまた何處に居るかも判らないのでござる」

と心配げに云つた

「おや御兩所は御同居しておられるのではないのでござるか？」

大五郎も意外に思つた

「左樣でござる、同居どころか何人であるか名も判らないのでござる」

「然らば失禮ながら御身は何人でござるか？」

「いや、名はしばらくお待ちが願ひたい」

と怪人は名乘るを拒んだ

その時、一人の覆面した武士が木陰に立つてゐる二人の方へ靜かに足音を忍ばせて近づいた

ナフトール
着尺
着尺モスリン
模樣名仙
平 龜田屋 電五七

廣告

らくふすり
御需めの方は
平白銀町 吉田新聞店へ
電話四十八

入院隨時（自炊の便あり）
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平長五〇七番

釀造元
銘酒 清世界
各炭鑛御用達
吉
清水屋
石城小名濱町
小野晋平
電話六番

一圓毎に福引券一本進呈
福引景品積んで山の如し
二町目聯合大賣し
舊十二月廿二日より廿八日まで
新一月十四日より二十日まで
七日間

實録忠臣藏
三十三卷（前後篇全部上映）
愈々十五日より封切公開 十五日より晝夜興行です
尾上紋十郎の大石藏之助は天下一品
嵐離德 實川延松 特別加入 武士道の大精華
◇新舊俳優大合同出場人員壹萬有餘人
◇帝キネ會社創始以來の大超特作品です
映畫長尺ニ付五時半映寫 帝キネ マキノ
有聲座

五町目福引大賣出し
一、御買上　壹圓毎に福引券一本進呈 五十錢は半本差上げます
一、期日　舊廿四日より舊卅日迄（七日間）
一、景品　一等以下六等迄大車輪 大奮發頗る豊富空籤なし
一、引換所　釜屋筋向
來て見よ！平町福引大賣出しの
大元祖五丁目東榮會へ

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋（久）釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番 三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり哉けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

鐵筋コンクリート
鐵骨組立　土木、建築、請負業
和洋建築　合資會社
文化式建築　丸三森川組
設計監督　社長 大森鎭平
東京日本橋南茅場町二〇 電話茅場町66四五二番

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長 博士 敬白
大谷時計病院
電話一九番

時計の進歩！遂に
振動不感の 腕用時計 を生めり
打付けてもたゝき付けても硝子も毀れず狂はない
側はクローム側にて小形です
TRADE MARK NIPPONOPHONE
平町四丁目
會田時計店
電話三六三

外科、耳鼻咽喉科
内科、泌尿器科
X光線科
外科 赤心堂病院
平町字田町
電話四七五

前年に比較して 約三千人增加

昨年末現在調査の 平署管內の人口

平警察署に於ける昨年十二月卅一日現在の調査した管內四町十八ヶ村の戸數人口調べに依ると總計戸數二萬七千八百五戸に對し人口十一萬六千六百四十一人で一戸平均約五人の割台である。此れを前年同期に比較するときは戸數に於いて約五百戸人口に於いて約二千八百餘の增加を示してゐる更らに此れを町村別に調べると二萬以上の各一ヶ町村一萬以上の各一ヶ町村即ち一萬以上は平、內郷、湯本、好間の二町二ケ村で第一位は依然內郷村の二萬五千六百卅一次位は平町の二萬千九百七十一で更に町村別にすれば（湯本）一萬四千二百卅七（好間）一萬百九十八（磐崎）八千九百六十三（小名濱）八千九（赤井）七千五百八十八（江名）四千六百六十九（澤渡）四千六百四十一（永戸）四千百五十五（小川）三千四百六十九（神谷）三千三百八十八（飯野）三千二百九十七（豊間）三千百七十二（平窪）二千九百五十（高久）二千八百十一（夏井）二千六百廿（玉川）二千二百卅五八等にして益々增加の傾向にあると

石城醫師會

協議題と新年宴

石城郡醫師會では去十二日午後一時平署樓上に年十六回總會を開催し昭和二年度上半期庶務報告、同健康保險、事務報告、縣醫師會定時總會狀況報告等あり午後四時閉會直ちに住吉屋本店に新年會を催した

盤石の基礎が出來 植電今期の好績

利益一割二分を配當し 社長功勞金贈呈

植田町植田水力電氣株式會社は大正八年六月創立以來逐年異常の發展を遂げ今春資本金二百萬圓四倉川電氣工業會社と合併し五百萬圓の大資本を擁して多々益躍進の途上にあり今十四日午前十時から第十六期株主總會を開き昭和二年度下半期利益金處分案を附議する筈であるが今期は

期間中を通じ 諸事順調に推移し一般の不況が加速度を以てその甚だしきを加へつゝある折柄なるに拘らず尙且前期同樣一割二配當を爲し得る成績を收め昨今に於ける萎微不振の斯業界に斬然稀有の好成績として迎へられてゐるのみならず竣工せる第二發電所の完成に伴ふ餘剩電力を完全に消化するに至らば將來一段の增配を實行し得るは蓋し既定の事實として一般から認められてゐるが斯くの如き同社の大をなしたのは

社長金成 通氏の献身的努力の結晶によること勿論にして株主間には金成社長に功勞金贈呈の議を叫ばれて來たが愈々今十四日の總會で重役に一任し同氏に右功勞金の贈呈を決議した因に同社現在の發電所は第一發電所四千キロ第二發電所二千キロを有し日立電力、磐炭、小田、大日本其他大小炭礦に供給し而も從來常に財界の不況に直面して工事を敢行し來つた必然の結果として賣電料

料金率の 低廉なる事他社の追隨をゆるさゞる處で今後益需要增加の傾向にあり更に第三第四發電所ノ計劃中である今期成績次の如し

金十萬三千百九十五圓六十三錢當期利益金金五千六百九十圓三十八錢前期繰越金△計金十萬八千八百八十六圓十錢△內金一萬圓財產減價消却△金八千四百三十七圓五十錢社債利子引當△二千圓諸稅金引當△差引金八萬八千四百四十八圓六十錢△金五千五百圓積立金△金四千五百金役員賞與金△金七萬五千圓株主配當金（年一割二分）△三千四百四十八圓六十錢後期繰越金

闇の女の素情

その多くは農家から 平署の調査結果

藝娼妓酌婦所謂闇に咲く花は[illegible]深刻[illegible]正比に殖えて[illegible]方面[illegible]警察署管內におけるこの種の闇の花の數は縣下に於ても最も多く然も大正七八年の炭界の黃金時代よりも今日の方が多く總數四百十九名を數へてゐる、これを種別に見れば藝妓百九十二、娼妓五十三、酌婦百七十四となつてゐるがこれ等の大多數は平、小名濱、湯本の色街のものが占めてゐる、この四百十九名の學歷程度を最近平署が調査したところによると

	尋六	無學	高女修
藝	七〇	四	一
娼	一三	七	一
酌	三一	三九	一

他に尋常四、五年程度のものも相當に多いがこれによつて見ると藝妓は概して學力程度も他の酌婦、娼妓に比して幾分向上して居り無學者の多いのは何といつても酌婦に多くこれが彼女等が悲慘な家庭に惠まれざる生活を送つてきたかが窺はれる、更これを年齢別に見れば△藝妓は十八才以上廿才未滿のもが最多で六十七名を占め、次で廿二歳以上廿五歳迄が四十六名十六歳以上十八歳迄が三十五名、三十歳以上七名、四十歳以上一名△娼妓は廿歳以上廿五歳迄が廿七名、廿五歳以上三十歳迄が二十名で三十歳以上の三名をる娼妓は概して年齢が平均してゐる△酌婦に至つては十八歳以上廿迄が五十八名、廿以上廿五迄が六十三名、三十以上卅五迄が十六名廿五以上卅迄が十四名、三十五以上が六名、十六未滿が八名もゐる

これらのものゝ大多數の前身は藝妓を除いてはいづれも中途から家庭の苦境を救はんために苦界に身を沈めたものが多いが酌婦娼妓の前職業を調査して見ると如何に右の事情が判る

	農	工女	その他
娼	二〇	四	一五
酌	七九	二九	一四

而も年々農村から苦界に身を沈めるものが多くなつたことは最近益々農村が疲弊困憊し可愛い娘でも身賣させねばどうにもやりくりがつかぬといふ慘めさが現實となつて現れてゐる

卓球協會

あす協議會

平町地方に於ける卓球界は近來益々旺盛隆昌の域にあり相當將來を囑目されてゐるが未だ之れ等同好の士連絡をとる各チーム相互の親睦と斯道の普及を計る機關のない事を遺憾とし同好者相謀りいよ／＼平卓球協會を設立すべく計劃中の處機運熟したので明十五日午前十時より平町七十七銀行平支店に於て協會組織に關する協議會をを兼ね練習リーグ戰を行ふ事となつた

愈々二月一日から 特別取集め貯金

『平局報』も發刊して 普選準備に多忙

平郵便局では愈々來る二月一日から特別取集め貯金の取扱を開始する事になつたので此の宣傳と舊年末の爲め頗る多忙を極めてゐるが取集貯金は一口二圓以上とし毎月一回宛つ期間は二年、三年、五年、七年、十年に分けて其の間を

据ゑ置く 方法で從來の團体取集貯金より一層範圍を廣く個人も指定された場所に局員が出張集金する極めて便利な貯金方法である而して當局では今年は普選第一回の總選擧を控え此れが準備に努めてゐるが田村局長は「局の一般事務も逐日非常な增加を示してゐるが局の事務は全部民衆と直接關係のものばかりで一般と

理解と言 ふ事が大切で私は何等かの方法で一般の方口と接觸した互に理解し合ふべき機關を設けたいと考へてゐる此の意味で近く『局報』と言ふ月刊を發刊して見たいと考へてゐる」と語つてゐた

老婆の慘死

高所より顛落

石城郡好間村大字北好間小田炭礦坑夫長屋居住薄井兼吉內緣の妻後山夫坂本サト（六二）は去る八日頃同村檜中川岸高さ約五間の所より墜落橫死して居たのを同日通行人が發見届出でたので平署から係官出張檢死の上夫兼吉に引き渡したがサトは[illegible]同神社に參拜の歸途墜落したもので多少精神に異狀を來してゐたものとみられてゐる

學生列車增發

平と久ノ濱間

平驛着上りの學生列車は時間上に甚だ不便なので石島德長氏等鐵道省に運動中の處十五日より左の列車が增發する事となつた

久ノ濱發　午前七、三五分

四倉發　同　七、四八分

草野發　同　七、五九分

平驛着　八、一〇分

消防へ寄贈

火事の慰勞に 金圓や酒を

去る十二日の沸曉平町十五丁目に折柄の烈風中突如發火し全町民を戰慄せしめたが幸に完備せる上水道の偉力と平消防組の決死的奮闘に依つて僅少の燒失のみ鎭火した事は既報の如くであるが其の後平消防組の功績甚大なりとし當時奮闘せる消防組員を慰ふの爲め左記の諸氏は各れも次の如く寄附方を申し出でた

一金參拾圓　織田豊太郎

一金拾圓　へ和家

清酒一樽　兒山材木店

同　大和田醫院

同　松本樓

双葉に居据り

平が敗けて 蠶業支所改築

双葉郡久の濱町縣蠶業取締出張所に隣郡石城が近年著しい斯業の發達で生產高は既に双葉の倍以上に達してゐるのみならず向後更に現在生產の約三倍位まで普及なし得る餘地を存し指導機關を最も必要とする關係上平町に同所を移轉すべく奪取運動が行はれ之れに對する双葉の支持運動裡にあつたが遂に双葉側の勝利となり來る四月の三年度から支所に昇格するので廳舍七十坪一棟の增築費三千九百圓並に所要敷地全部を地元久ノ濱町の寄附を以て近く工事に著手し本度度內に落成させる豫定であると

東北デンマーク 當分建設至難

更に委員を集めて 着々實現に努力

石城郡各町村農業技術員會に於て郡內に東北のデンマークを建設すべく計畫されたことは既報の如くで其後大山郡農會技師外委員五名によつて具體的施設を

研究協議 されてゐるが計畫がよくても實際に手を染めようとすればなかなか容易でなく頭を惱ましてゐる主任格の大山技師は語る「施設案は幾らもありさうだがどれをとらうとなると手が出なくなる生產から販賣に信用制度問題農業組織其他理想的のも築き上げようとするには先づ其適當なものに乏しいそれで青年篤農とも云はうか中堅人物の養成から掛らねばならず養成の方法には各町村一二名づゝ

其町村の 選拔を集めてやつたものか夫れ共他の方法によつたものか最初は郡內の一ヶ所に力を注いだものか又は各町村散在的模範農業地を造つて見たものか兎も角明年度に豫算をとつて事業を進めたいものであると」此模樣では未だ殆ど成案がないらしく近く重ねて委員の研究會を開かれる由であるが實現迄には前途甚だ遼遠と見るものが多い

實側も終つて 敷地確實に決る

愈々工事に着手する 平郵便局舍新築

多年の縣案たりし平郵便局の局舍新築問題も行惱であつた敷地たが過般平町四町目表通十一番地六百坪に決定を見たので急速の進展を見るに至つたが決定した該敷地の實測のため來平中であつた仙臺遞信局の黑田技手は十三日迄に大体の實測を終了し同日歸廳したが同技手の實測に依つて敷地は愈々確定的のものとなり仙臺遞信局は近く最後の實測を爲した上敷地の買收手續、並に工事の設計に着手する筈であるが此れに依つて平局舍の新築問題も一先一段落を告げる事となつたが工事は今春三月中までに一切の準備を了した上遲くも四月の年度變りには着工の運びを見るものと豫想されてゐる

糯米騰る

製穀高上で 平米穀商組合

平町米穀商組合では此程陸糯二錢水糯一錢の小賣値段を引上げたが之れは中央市場に於ける米價昂騰に伴ひ引上げを餘儀なくされたものでなく既報の如く同地方では農村が漸く自覺の結果品質製穀等を向上せしめ共同販賣等を行ひて其の市價を中央市場の市價に接近せしむる方法を講ずるに至つたので從來の如き安値にて米穀商に賣却せぬ傾嚮となつた結果殊更に糯米のみが舊歲末となつて需要期に入る爲めの引上を見たのだ

藥價にも足らぬ 健保診療報酬

診療を厭ふも無理ない お醫者連騷ぐ

石城郡醫師會で取扱つた健康保險の診療報酬は馬鹿／＼しい安さで之れでは如何に仁術を以て始終する醫師でも立ち行かぬと不平の聲漸次喧ましきものあり近くは何等の改正が行はれるものと見られてゐるが其節、調査した所によれば外來及び入院を合し一點平均一月は五錢七厘、二月十二錢七厘、三月七錢八厘、四月八厘、五月九厘、六月六錢[illegible]厘、七月八錢三厘、八月九錢五厘、九月九錢三厘、十月九錢五厘といふ驚くべき單價でこれでは到底藥價の實費にも當らぬお醫者さん達が診療を厭ふのも無理はない、しかも健保險による診療は石城だけで一ヶ月四萬點以上に達してゐると

夏井川の治水工進渉

關係民大喜び

石城郡夏井川沿線平町外三ヶ村の治水工事は工費三萬三千圓で昭和元年度より三ヶ年間繼續事業として各町村部落民請負の元に工事中の處平町鎌田、飯野、神谷の各村は既に終了し殘工事夏井村上大越の工費三千七百二十圓は三年度內に終了の見込で近く着工の筈であるが完成の曉は雨水の氾濫の憂ひなくなり一般村民は非常に悅んでゐる

明日休刊

東榮會聯合

暮の大賣出し

平町五丁目東榮會ではいよ／＼明後十六日より恒例による舊曆歲末の聯合大賣出しを開始し一年一度の大奉仕をなす事となつたが福引景品は例により內容豐富なもので非常な前人氣である

一家殺しの實地檢證

控訴院長一行

石城郡湯本町山形屋旅館に宿泊した宮城控訴院石田部長、柳瀨、橋川兩判事、井上檢事、酒澤書記一行は十二日午前九時半水に出張し大越治八郎（四〇）にかゝる大越一家慘殺事件につき實地檢證を行つた

故植竹氏の葬儀

會葬者二千名

平町舊城跡元縣立磐城中學校長植竹源太郎氏は昨年以來胃癌を病み自宅に療養中の處十一日病革り午後五時二十五分遂に長逝した事既報の如く葬儀は今十四日午後一時自宅出棺平町長源寺に於て佛式により執行したが唐土磐中校長白井同窓會長以下磐中卒業生等約二千名の參列者あり稀れに見る盛儀であつた尙植竹氏は磐城中學校創立最初の校長で氏の門下生には醫學博士、實業家、官吏等凡ゆる方面に社會に重きをなしてゐる者少なからず晩年に於ては大越中佐の銅像建立を企劃し寢食を忘れて之が實現に努力し漸やく來る四月頃完成する筈であつた際とてその死は一般から非常に惜まれてゐる

飯野村谷川瀨青年
副支團長
賀正
須藤榮學

一圓毎に福引券一本呈上
五十錢でも半本差上げます
舊十二月二十三日より十二月二十六日迄
新一月十四日より一月二十日迄

四丁目聯合福引大賣出し
◆景品　桐箪笥、夜具、布團、メリヤスシャツ、反物等々積んで山の如し
四丁目商人の實質本位の商ひ振りを御試めし下さい

常磐第一ノ大炭礦タル磐城炭礦ノ石炭
石炭と「コークス」の特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速
ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカト驚カレ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス
値段正十貫目一俵金六十五錢也
平驛前
阿部石炭商店
電話二二三七番

金牌一等賞受領（數回）
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番
◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候

故植竹源太郎送葬の際は遠路御會葬を辱ふし難有奉存候右略儀以紙上御厚禮申述度如斯御座候　敬具

昭和三年一月十四日

妻　琴

親戚總代　長野幹

桐谷文平

友人總代　青沼鋒太郎